

仕合わせの和

第227号

令和3年 2. 1
(毎月1日発行)

コロナ克服に

貢献したい

住職 谷川寛俊

10年程前「ノーベル医学生理学賞」を受賞された京都大 ips 細胞研究所所長の山中伸弥教授を皆さまもよくご存知のことと思います。

たびたびメディアに登場され、スポーツマンでもあり、とても親しみやすい方です。

その研究室で一緒に研究されている方に、K教授がいらっしやいます。実はKさん、真成寺の大変熱心な信者さんのお一人で、奥様のA(女医)さんのご両親が縁あって、久遠廟に納骨されています。家族お揃いで何回も参詣されておられますが、このご夫婦も非常に親しみやすいお医者さんでもあります。お二人とも医療の最先端で頑張っておられます。機会があれば是非皆さまにご紹介したいと思います。ところで、感染拡大がなかなか収束しない今日、山中教授のインタビュー記事が過日新聞に掲載されていたので、改めてご紹介したいと思います。



『予想もしなかった新型コロナウイルスが人類に襲いかかり、昨年は大変な状況になりました。私は研究で病気を克服するために医学研究者をしているので、少しでもコロナ収束に貢献したいと思っています。そして様々な細胞に変化できる能力を持つ ips 細胞を活用できればと願っています。日本の方が大変な目に遭っていて、飲食店や芸術家の方も厳しい状況です。でも、日本は欧米などに比べて、人的被害は比較的少ない傾向です。今後も皆さんが油断せず、一丸となって賢い努力を続けければ、トンネルの向こうに光が射してくると思っています。』

コロナは何故、欧米で拡大し、日本など東アジアで死者数が比較的小さいのかは十分には分かっていません。日本で人口当たりの死者数が少ない要因を私は「ファクターX」と名付けました。ファクターXは、おそらく複数あり、文化や生活習慣の違いも大きいと思われる。日本ではマスク着用が徹底されていますが、欧米では地域により様々です。コロナは非常に賢いというか、マスクを付けないなど、対策の弱い所につけ込んで広がります。

他にも遺伝や免疫学的要因がある可能性もあります。ファクターXが今後も続

真成寺ホームページ



玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268
携 帯 080-3744-2523
こちらの番号でもお寺につながります。

くことを祈ります。研究者は競争するものですが、今はこのパンデミックを何とか科学の力でやつつけるために協力できないかと、皆が一生懸命考えています。今まで無かったことです。

コロナという人類共通の敵に立ち向かう研究者の心意気を、私もその一員として非常に心強く思っています。世界中の研究者が団結すれば、必ず打ち勝てると思っています。

今年は東京五輪・パラリンピックも予定されています。皆で力を合わせれば立ち直った姿を世界に披露できると思っています。※要旨抜粋。

(まと)を得たインタビューで心強く思いました。

私も一年前より御宝前にお塔婆を建立し、毎朝ご参詣の皆様と共に、コロナウイルス収束の祈願と、亡くなられた御霊(みたま)の安らかならんことを祈り続けております。

そして、科学と医学と宗教の祈りの三位一体(さんみいったい)が、かならずや

収束の結果を見ることが信じます。いま、日本でもワクチン接種の時が迫っています。

ワクチンという言葉は、ラテン語で雌牛を意味するワツカ(vacca)に由来するそうです。それは、牛の天然痘である牛痘。そのウイルスを健康な人に接種する牛痘種痘法で、人類は天然痘の感染を予防する事が出来たそうです。

今年(あとも丑(牛)歳です。これも何かの因果関係があるのかも知れませんが。改めて私たちの出来る最低限の感染予防策。「手洗い」「マスク」そして「三蜜の回避」を実践し、異体同心して皆様と終息を祈りましょう。

